

# みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

## 人になれ 奉仕せよ

聖句 : 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。  
だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。 (マタイによる福音書 6章26節)

- 保育目標 : 0歳児 ・保育者に見守られる中で、周りのものや人に興味を持ち関わろうとする。  
1歳児 ・自分の周りの様子に気付いて、関わろうとする。  
2歳児 ・感じたことをことばで表そうとし、共感してもらえる喜びを味わう。  
3歳児 ・水・泥・自然に触れることを楽しみ、様々な体験をする。  
4歳児 ・興味を持ったことを繰り返し楽しむ。神さまからいただいた身体を大切にする。  
5歳児 ・友だちとの関わりの中でやり直すことや仲直りする経験をする。  
・神さまからいただいた身体を大切にする。

今年は春の桜も例年よりも早く咲きましたが、アジサイもまた早めに色づき始めました。植物はニュースよりも先に季節の訪れを私達に教えてくれますね。

進級・入園して2ヶ月経ち、まだ戸惑いを見せる子どももいますが、子ども達は自ら遊びを見つけて楽しむ様になりました。

振り返れば私達保育者は「子ども達の姿をありのまま受け入れ、慌てることなく丁寧に対応していこう」という気持ちで4月のスタートを切りました。

手が必要な所にあちらこちら回って手伝っている私はある日の朝、保護者と離れる事に不安を見せていたY君に手を差し出すと振り払われ、仕方なく抱きかかえると「ママがいい！」と怒られました。また、別の日の登園後、泣いていた乳児のNちゃんを抱くと、感触の違いを感じるのでしょうか、体を反り返らせ全身で「ちがうー！」を伝えてきました。そんな子ども達に「そうだよね〜。ママがいいよね〜。」「私でごめんなさいね。」とつぶやきながら抱っこし続け、周囲に目が向く様に歩きまわるとY君は観察ケースに目を止め「かめさんの首、動いてる！」と話し始め、Nちゃんはキラキラ光るペットボトルの色水を見て興味を示し笑顔に。「気持ちが和らいできたかな。」とほっとしました。次第に手を引っ張り「庭に行きたい！」と言ってくれたY君、抱っこされながら気持ち良さそうに眠り始めたNちゃん。「私の事、受け入れてくれたのかな」と嬉しくなりました。

大人は一方的に子どもを受け入れていると考えますが実は私達もまた子ども達に受け入れられて関係が成り立っていると感じた出来事でした。

また、こんな事もありました。片づけ間際、使いたかったストライダーを貸してもらえなかったS君は気持ちが収まらず保育者に「悔しかった！」「もっと遊ぶ！」と怒りながら保育室に戻りました。しかし部屋の入口に着いて二人の男の子が寝そべり観察ケースを見ている姿が目に入ると、目を輝かせて「いれて！これなに！？」と二人の間にスライディングしていきました。二人の男の子は快くS君を迎え入れ「これねー」と楽しそうに三人で話し始めました。仲間に入れてもらったS君はそれまでと打って変わり一気に明るい表情になっていました。

十分大人に気持ちを受けとめられて子ども達は安心して過ごせる様になります。すると次第に周囲に気持ちが向き「一緒にいたい」「一緒にいると楽しい」と繋がりをもちたくなります。人は生まれながらに「人と繋がっていたい」という気持ちが備わっているのではないのでしょうか。人と関わる中で嬉しさ・楽しさ・悔しさ・悲しさなど色々な気持ちと出会い、そこから「他者に受け入れられる」「他者を受け入れていく」という貴重な経験を重ねていくのです。そんな子ども達を焦ることなく見守り育てていきたいと思えます。

6月は花の日礼拝があります。花の日は「こどもの日」とも言われます。花も人も神さまから命を与えられ、愛されて育ってきたことに感謝する日です。

神様は一つとして同じものではなく、違った色や形の花を育てて下さいます。そしてそれはどんなに小さなものでも尊いものと愛して下さいます。子ども達も同じです。一人ひとりが違ってよいこと、一人ひとりがそれぞれ尊く大切である事。お互いを「大切」と思えるような気持ちを育てていけるように、これからも一人ひとりに合わせた寄り添い方で共に歩んでいきたいと思えます。

依然、新型コロナの脅威を感じる毎日ですが、これから暑くなり熱中症や食中毒などにも気を付けていかなければなりません。規則正しい生活をして体力や免疫力を落とさないように心掛け、食事や水分補給などに留意しながら6月も健康に歩みましょう。

主任 藤肥 礼子